

滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画の目標へ向けた考え方の筋道

10年後の社会

多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく

中間的な目標

誰もが日常の中で、湖との暮らしのより良いあり方を探求できる

さまざまな人びとが出会い、学びあい、多くの人と共有・実践する機会を持てる

湖と人間を考える人びとの活動が持続的にできる

博物館の事業は、複合的に関係し合っているために、複数の目標に関係してしまうが、中心的な役割で分けてみる

直接的な事業の目標

地域の人々や研究者など多くの人による琵琶湖や湖と人間の研究が発信される

整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている

利用者が実施者になった多様な交流事業が実施される学びあいの場で情報交換が行われる

湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える

館内および館外からも利用がしやすくなり利用者が増える

安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる

【実施する事業】

【事業目標1】

琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

【事業目標2】

資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

標本・資料の管理体制の強化

標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

【事業目標3】

みんなで学びあう博物館へ

幅広いニーズに応える交流事業の充実

出会いの場の創出

「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

【事業目標4】

もっと使いやすい博物館へ

誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

【事業目標5】

より多くの人々が利用する博物館へ

ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

来館しやすい環境の整備

【事業目標6】

博物館の活動を安定して継続する

老朽化した施設の改修と災害への備え

安定した活動基盤を確保する仕組みづくり